

東南アジアの仏教国のお坊さんがオレンジ色の袈裟を纏っているのは皆さんご存知のことかと思います。仏教においてオレンジ色は献身と至福を意味し、あらゆる侮辱や誘惑に耐え奉仕するということを表しているとのことです。

かつてベトナム戦争の煽りを受けて始まった大虐殺の時代には宗教も禁止され寺も破壊されつきましたが、現在ではカンボジア全土に5千以上の仏教寺院と7万人の僧侶がいると言われ、内戦以前のように復活を果たして人々の支えとなっていると言えそうです。



首都プノンペン北東部に住むマカラさん、もともとは洗濯屋でしたが袈裟の仕立ても始めたところ大変好調で、新たに業務用ミシンやアイロンや増やしたいということで融資をさせていただいています。

ちょっと気になっていたのが、この近辺はモスクが沢山あり、住民のほとんどがイスラム教徒という地域にあたり、マカラさんもイスラム教徒ということ・・・仏教の袈裟で商売するってどうなの？？？

でもマカラさんは笑いながら「そんなの気にしたことないわ、ウチの主人だっていつもイスラムの格好でお寺行って注文とってきてるわよ！」。確かに言われてみればカンボジアでは宗教の違いによるトラブルって見聞きしたことありません、その辺おおらかみたいです。

ところでこの袈裟、お坊さんが着替えているところは見たことがないのでどんな風に着るのか興味があったので、一緒に訪問したウチのスタッフに着て（巻いて？）もらいました。あ、なるほど、袈裟の大きさも形もうまく身に着けられるようにできていたのだと納得できました。

15歳から5歳まで4人のお子さんがいるマカラさん、子供たちもご両親を見ながら今の平和なカンボジアでおおらかに成長されますように・・・

